

立川相互病院 卒一看護師から 坂総合病院 卒一看護師へ応援メッセージ

今年、健生会・立川相互病院に入職した卒1看護師34人は、4月1日の入社式以来、「私たちにできることは何か…」を自らに問い続けてきました。「私たちはこうして日々、研修が進んでいるけれど、坂総合病院の卒1看護師さんたちはどうしているだろう…。みんなで、坂の同期の仲間を励まそう！」とメッセージを送ることになりました。

模造紙には卒1看護師一人ひとりの、被災地の仲間に心を馳せた熱いメッセージがビッシリ。この模造紙はもうすぐ、坂総合病院の仲間の手元に届くはず…。

東京から被災地にむけた可愛らしいエールが、同じ時代(とき)に、同じ民医連の仲間となった一人ひとりの看護師たちの胸に、しっかりとときざまれることを願わずにはいられません。

(健生会G災害対策本部ニュースNo.24より)



小名浜

長く続く余震で、高齢者のダメージは大きい



現地の看護師が車で被災場所を案内してくれました。最初に行ったのは小浜港。転覆した小船はそのまます。津波により倒壊した家、家。後片付けは、はかどらない様子。マリパーク前の敷地は、液状化でコンクリートが剥がされています。小名浜港は悲惨な状況。魚の加工場や海産物店舗も津波により全壊。産業道路(片側3車線)も津波をかぶり、道路沿いの店舗や会社が大きな被害を受けています。

豊間という地域は200世帯の小さな地区ですが、半分以上が津波で全壊。通院していた患者さんは、目の前で孫が流されてしまったと話していたそうです。患者さんは何かしら地

震や津波の被害をうけています。避難所からようやく自宅に帰ってきたが11日の震度6弱の余震で、また停電、断水。糖尿病の患者さんは十分飲めず食べられず脱水の方が多く、不眠、食欲不振、不安etcで高齢の患者が大きなダメージを受けています。民医連の小名浜生協病院附属せいきょうクリニックの看護師は患者からよく話を聴きとっています。地域になくってはならない病院だと感じました(東京民医連 工藤 貴美子)。

東京民医連支援者登録到達状況(4月15日9時現在)

全支援者数 415人(医師 63人、看護師 96人、その他 256人)、延べ支援日数 1,820日